

〔翻 訳〕

『スペクテーター』(55)

——第520号から第529号——

門 田 俊 夫

第520号 1712年10月27日（月曜日）

【スティール】

誰がこれほど嘆き悲しむことができるのか。

いつになったら、親愛なる友の悲嘆に終止符を打つのか。

(ホラティウス)¹⁾

観察者殿

貴殿が結婚状態に関するもっともな価値を述べておられたので、お恥ずかしいことですが私も意見を述べてみたいと思います。実を言いますと、非常に感じのいい妻を亡くして3か月になりますが、私の悲しみは依然としてなまなましいものです。人々に囲まれていても、彼女の記憶を蘇らせる状況に接すると、しばしば彼女ならどんな言動をとるかなと考えてしまいます。そんな場合、うまく表現できませんが、私はすっかり気が弱くなります。そして、引き籠って気持ちが落ち着くまで溜息と涙に暮れざるを得なくなります。私としては貴殿に男やもめというテーマをお勧めし、なるべく早い時期にお考えをお聞かせいただきたいと思います。配偶者の存命中に夫としての生活をしてない人々にとっては、これは味気ない言葉の寄せ集めになるに違いありません。しかし、(かなり多数になりますが)結婚状態をそれにふさわしい気持ちを抱いて過ごしている人たちにとっては、憐憫と慰めの涙を誘うものとなるに違いありません。神のどのような善意によってそうなるのか私には分かりませんが、感情のほとばしり一つひとつが悲しみの軽減に向かう一歩となり、悲嘆にくれるその行為そのものにある種の慰めが伴います。思いますに、これは心の中に宿るひそかな意識から生じ、その陰には高潔な動機から生まれる苦悩が潜んでいます。実際には、私の不安は最初に感じた時ほど常軌を逸したものではありません。なぜなら、私の悲しみは実際の動揺というよりもむしろより冷静な心的状態におさまっているからです。こういった大きな出来事に対する人々の振舞いには、私が現在陥っている不幸から連れ出してくれるルールがあって、私の悲しみが荒んだ気持ちをすべて、従順、善意、そして自己満足へと変えたのだと思います。しかし、実際には考え込んで寂しくなると、私は

1) ホラティウス『頌詩』1.24.1-2

亡くなった妻を思い出します。そして感情的になったときには彼女の表情を見て安心し、上機嫌のときには彼女の愛想のよさを思い浮かべ、落ち着かないことがあるときには彼女の思いやりを思い出すのです。正直言って、私は悲しみに沈んでおり、まるでつい今しがた彼女が息を引き取ったのを見守っているかのように、悲嘆がほとばしり出ます。こんな状態のときに、結婚した当時の母親に瓜二つの可愛い娘が割り込んで来ます。娘は私を慰めようとしますが、彼女の慰めは私の涙を誘うだけです。娘には私の悲しみを募らせませんが、私が喜ぶことも分かっています。学識のある貴殿にお願いですが、名状しがたいこの魂の動きをなんといったらよいのでしょうか。ひざまずいて元気を出してくださいという彼女は私の子供なのです。抱きしめてもう何も言わないでというとき、彼女はまさに私の妻であり、慰安者なのです。私は娘を部屋に行かせ、母親を亡くしたことを、そしてまた娘が残っていることに声を出して泣き崩れます。

観察者殿、何卒貴殿がこの悲しみと喜びが複雑に絡み合った心境をご理解していただきたいものと思います。そして、罪深い人たちには高潔な者が抱く悲しみにひそむ幸福を味わうことが出来ないのだということをお伝えいただきたいと思います。

ところで、今しばらくお付き合いください。妻の死の様子について語らせてください。彼女は家族全員に暇乞いをして、この上なく辛抱強く無益な治療に耐えたのでした。医師が死は避けられませんかと告げたとき、彼女は私以外全員部屋から出て行って欲しいと言いました。彼女は観念しているので何も語ることはないと言いました。彼女が後に残る私たちのことを気に掛けているのが私には分かりました。彼女は神の面前で、誰にも邪魔されずに私の優しさに対して最後の感謝の気持ちを伝えたかったのです。さらに、私に名誉と真実と美德を持って振る舞った自分と同じように、私の今際のときにも慰めがありますようにと付け加えました。

私は自制して、随所で感情的なほとばしりを見せることに対してとがめを覚悟したとき、この優しさによって私の心が分断されたとは申しません。それに加えて、彼女自身の美点にふさわしい幸福があったなら、私に感謝してもらいたいとも言いません。私がこれまでに彼女に言ったあらゆること、二人で分かち合った悲しみと喜びのすべてが、たちまちにして私の心に押し寄せました。その直後、私がそれまでしきりに我を忘れて抱きしめていた体に死の苦しみが押し寄せているのが分かりました。あの慈愛に満ちていた眼差しは怯え、必死になって私を見詰めたのです。私は我慢の限界でした。彼女は私の腕の中で息を引き取ったのです。気が動転した私には彼女の胸がそれでも波打っているように見えました。確かにまだ命があったのです。彼女はたった今私に話しかけたのだと叫びました。だが悲しいことに、私は目がくらみ、頭は異状をきたし、周りのあらゆるものが揺れ動いたのです。最愛の妻は息絶えて、永遠に帰って来ることはなかったのです。

ところで、私の話から、貴殿には善良で公正な人には悲しみのどん底にありながらもそれを打ち砕くある種の冷静さが備わっているという教えを打ち立てていただけるものと思います。こういった人たちは人間味あふれる人たちに共通の苦悩を経験しなければなりません、意識的な清廉潔白さによって苦悩が徐々に弱められるわけです。それどころか、

まさに苦しみの最中に美德の効用を考えることで、その苦しみが誠実さに力を付与するのです。私は貴殿にこういった悲しみを克服するルールを打ち立ててもらいたいと考えたのです。いや、人々にこれが可能なことを教えていただくことをお勧めしなくてはなりません。

あなた方文人は適切な言動を理解することにかけてはいわゆる洗練された判断力を備えていらっしゃる。あらゆる言動に誠実で忠実な人の魂に根強く接ぎ木された何かがあります。世間では認められますが、誠実で忠実な人にとっては、偽りで邪な、あるいは取るに足りないことはすべて卑しむべきことなのです。同時に、人生におけるあらゆる悲しみと喜びに対してこの上なく鋭敏な感受性を備えているのです。礼儀正しさと真実に包まれて苦しむべきときに悲しみを欠くことは、その人が愚か者であることのしるしであり、その愚かさ加減はウェルギリウスの文章の美点を知らないことよりも勝っています。観察者殿、貴殿はまだ当時の立派な紳士諸氏が冷淡さを推奨し、彼らの主張に人間性はほとんど入り込んでいなかったのだとは述べられていません。当時の紳士は憎悪する人をいつでも殺害する覚悟が出来ている人が勇敢でしたが、愛する女性のことを嘆き悲しむことはさほど評価されませんでした。貴殿には是非とも、私がお話ししました悲しみを感じ易い人たちのことを考えて素敵な考えをまとめていただきたいと思います。おそらく、この件をご検討いただければ、嘆き悲しむことが出来る人が最も賢明でかつ勇敢だということに気づかれるものと思います。

敬具

1712年10月7日、ノリッジにて。

第521号 1712年10月28日（火曜日）

【スティール】

真の顔が登場し、偽りの顔が姿を消す。(ペトロニウス)¹⁾

観察者殿

小生は長年、見たり聞いたりできること、つまり、見たり聞いたりしたことを報告できるものはほとんどないないと声高に主張して来ました。無能力ないし偏見のために、ほぼあらゆる人が語るべきことを語れなくなっています。このため、小生は耳にすることは何一つ信じる事が出来なくなっています。さらに小生は、実務的人物という呼称で語る人々を軽蔑します。小生から言わせれば、実務的人物というのは実際のでないことを報告することに全生活をかけている人なのです。

オイゲン公が来英したときのことを覚えています。観察者殿、貴殿が公にするまで彼の人となりについては知るすべがなかったのです²⁾。語りでは、表現力は往々にして言葉そ

1) ペトロニウス『サテュリコン』80

2) 第340号参照。

のものよりも表情や声の調子や身振りにあります。洞察力に欠けたやり方で繰り返されますと、本来の意味とはまったく異なった解釈を施されることになります。実を言いますと、小生は以前にこれをうまく活用したことがあります。小生は異常に熱っぽく、また、それなりの根拠に基づいて語られる話を聞くとときはいつでも、常にそうではない方に賭けたのです。実際には完全に反対との立場を取るほど向こう見ずなことはしませんでした。実際に起こったこと以外にも、さまざまなことが起こりますので、ほんの1%にこだわるのではなく、残りの99%に賭けたのです。その結果、うまく行く可能性が高まったわけです。小生は語っている人を興奮させ、調子に乗せるある種のコツを獲得していました。もしその人がさらに情熱家であれば、つぎの段階は不可能なことを口にするしかありません。そのときこそ賭け時となります。しかし、これには細心の手腕が求められます。さもないと、論争はおそらく旧来の決闘で決着をつけざるを得なくなります。小生はこういった考えで運よく、公然と知性を自慢し、ほかの人たちよりもいち早く誤った情報を手にすることに精力を費やしてきた人たちを打ち負かして来たのです。

流布している噂に異議を唱えることでかなりな額を手にししたので、私はとりわけ党派に関わることに無頓着を装うことにしました。とはいえ、その話には貪欲に聞き耳を立てたのです。でも、私には一言も分からず仕事のことであれ娯楽のことであれ、静かに耳を澄ませながら、自分勝手な思いに耽ります。無頓着と言いましたのは、先の国会制定法は党派のことで嘘をつく人たちを罰金から守り、その結果、注意して耳を傾けても無駄なことになったからです。しかしながら、育ちの良さが細心の注意を強要し、コーヒーハウスのテーブルの端にお腹をしっかり押し付けて聞き耳を立てることになります。話を骨折って受け止めれば受け止めるほど、慇懃に身を乗り出すことになります。加えて、語り手は聞き手が聞くという喜びで痛みを忘れると考えているわけです。

ノック要塞³⁾の話は複雑で野暮な熱意と敵意を生じさせました。先日、私が居合わせたコーヒーハウスでその件を私に振って来た人がいました。彼はその要塞に居たと言ったのです。私には彼が単に目撃者だったということだけで何か情報を知らせる能力がある人ではないことが分かっていました。そこで、彼が何の情報も提供することが出来なくても大いに満足していました。しかし、彼は居合わせたので情報が提供できるものと信じていたのです。けれども、私はシェイクスピアがつぎのように述べるように、彼の言うことに熱心に耳を傾けました。

私が見かけた鍛冶屋はハンマーをもったまま、
ボカンと口を開けて仕立屋の話を聞いていました⁴⁾。

実は最近では、私はコーヒーハウスの熱弁家に出会っても以前ほど驚かないのです。なぜなら、彼らはわめきに対して報いがあることを期待しているだけなのですから。こういった嘘つきにはタイプが二つあります。最初のタイプの才能はこの上ない厚かましさとゆる

3) イープル運河河口の重要な基地だったフォート・ノックは、1712年10月6日、同盟軍のドゥ・ラ・ルー大尉の急襲によって占領された。

4) 『ジョン王』第4幕第2場193行、195行。

ぎない記憶力にあります。もう一つはこういった資質にまずまずの理解力と滑らかな弁舌を付け加えています。それゆえ、こういった人たちは可能な限り雄弁で、粉飾家と呼べるような頭脳の持ち主です。一方は他人から聞いたことだけを熱っぽく復唱するだけで、暗唱する人と言えます。数年前、朝8時にチャリングクロスで、その後夜8時まで街のあちこちで嘘をついて楽しんでいる人がいました。夜8時には、友人たちの集うクラブにやって来て、コヴェントガーデンのウィルではどんな非難があったかとかチャイルドは危険だとかジョナサンで株に関してどんな結論が導き出されたかといったことをみんなに喋ります⁵⁾。私は光栄にもこの紳士と虚言を捜しに出かけたことがあります。そして、自分好みの知性にしたがって、当人のことを背が高いとか低いとか、黒いとか綺麗だとか、紳士とか浮浪児だとか噂している現場に出くわしたことがあります。巧妙な書き手がある客が徒弟か妻が逃げ出したという広告を手にしてやって来たとき、広告主に無礼者のことを口にする前に心を落ち着けるようにと言っているのを耳にしたことがあります。憤慨した状態で相手のことを公にしてしまうと、怒りのために当人の真の姿は歪んで見えなくなるからというわけです。それゆえ、この書き手はお客にはいつも腹を立てる前日の気持ちで語らせるのでした。あらゆる捏造を解明するために、いろいろ指摘できますが、これに関する思索を向上させる、あるいは、無視するかはみなさんご自身の判断に委ねます。

敬具

スペクテイター第502号の追伸

要注意：テレンティウスのとても優れた喜劇とされている芝居には、良識のある人から笑いではなく涙を引き出す出来事が散見されます。

第522号 1712年10月29日（水曜日）

【スティール】

神々のすべてにかけて誓ってお前に言うが、
僕は絶対あの娘を棄てたりなんかしない。
たとえ全世界が敵にまわったということが分かってても。
僕はあの娘を求め、獲得した。二人の気持ちは合っている。
僕たちの仲を裂こうとしている者は消え失せろ。
彼女を僕から奪い去る者があるとすれば、それは死神だけだ。
(テレンティウス)¹⁾

もし私の思索がとても重要な人生の出来事、つまり、結婚相手の選択ということで少しでも読者の振舞いを正すことに貢献できているとすれば、自分は大変な果報者だと思います。結婚というものは社会の基盤であり、大切な絆です。それゆえ、未婚の読者に今後の

5) ウィル、チャイルド、ジョナサンそれぞれのコーヒーハウスは、第1号に登場。

1) テレンティウス『アンドロス島の女』694-697行。木村健治訳（ローマ喜劇集5，京都大学学術出版会，2002年）を借用。

人生の幸不幸を決する結婚相手の選択に手掛かりを与えようと思えるこの件についていくら触れても触れすぎることにはならないと考えます。結婚では、高潔な気質や立派な判断力や愛想のよい人柄や心配のない財産が何よりも重要視される項目となります。私の現在の意図は多くいる恋人の中から誰を選ぶべきか迷っている娘さんに忠告を与えることです。で、女性の読者に向けて話しかけることにします。私がこれから述べますように、良識、美点、富の持つ利点は確かに結婚を考えている資産家の慎重な娘さんにとっては重要な誘因となります。しかし、一つ一つを注意深く見てみますと、こういった長所をすべて備えている人物が本当に望ましいのかどうか疑問に思えて来ます。もし素晴らしい才能によって富を獲得することが可能で、富では立派な資質を手にすることが出来ないとすれば、ほどほどの財産があり人柄が好ましい優れた才能の持ち主の方が、富だけを所有している人よりも好ましいのです。才知や人を楽しませる能力は善良さと人間性に基づくものでない限り高く評価すべきではありません。自分自身や周りの人たちを不安にさせる能力しか持ち合わせていない巧妙な人物は数多くいます。こういった人物は遊蕩に夢中になる人々であって、生きの良さや陽気さがないと生きて行けません。そして、冷静、言ってみれば、熱中とか失意を伴わない落ち着いた精神状態とは無縁です。こういった巧妙な人物は夫としてはどんな事情があっても敬遠されてしかるべきです。彼らはいったん所有してしまうとすぐに満ち足りて、人生を楽しく過ごすために必ず新たな女性を獲得しようとします。彼らにとっては片時でも楽しくない時間があると耐えがたいからです。しかし、機知と分別を備え、理性と名誉に照らしながら自らおよび相手の性格をおもんばかることができる人がいます。こういった人たちは、病気になったときでも、健康なときでも庇護下になると選んでくれた女性に欠点が見つかったとしても、最大の謝意を持って接しないとすれば、理性と名誉に違背していると考えます。要するに、愛する人の欠点の埋め合わせをする気立てのよさを授けることを自分の義務と考える人たちがいるのです。彼らは常に相手を愛と憐憫の対象とし、自分の腕に飛び込んできた相手を喜びと賞賛の対象にします。

ライサンダーは後者に属します。彼は才人で学識も節度も善良さも備えていますが、生まれと財産はどんな女性も受け入れられないほど劣っています。彼については、恋人のせいではないのですが、恋人が自分の運を高めて欲しいという現在の願望がうまくかなうかも知れません。主張が似通っている大勢の中から誰を選ぼうかと考えているときには、確かに知性に優れている人を選ぶはずで、目の前に生じることに對して機転が利かなく、楽しい会話へと展開できない人が同じような会話を繰り返すと、人生は重くのしかかってきます。正直者のウィル・スラッシュとその細君は結婚して4か月経っていませんが、この6週間互いに一言も交わしていません。大勢の召使に囲まれながら、辛うじてその存在を認められるだけで、富を享受できない謹厳実直なこの二人ほど馬鹿げたことはありません。彼らの最大の関心事は、時間、昼と夜の違い、そして食事のことだけです。これはおそらく実に退屈な男と一緒にあった極めて控え目な女性の生活を示しているのですが、私は如才ない、つまり、生活の過程で生起するあらゆる出来事において、細君に新たな喜びと満足感を提供する巧妙な人物との交わりを称賛しているわけではありません。だが、

こういった男性の言動を賞賛することは女性にとっては絶えず大きな喜びを与えることになります。しかし、生活が刻一刻変化し、心が向上し、あらゆる出来事に喜びを覚えるだけでは、女性は自らの幸運に拍手喝采するわけにはいきません。新たな喜びと楽しみを作り出す際には才能を発揮し、女性が持参した財産を女性の名誉と評判に貢献させます。こういった感謝の気持ちを抱いている良識のある人物は絶えず自分を際立たせてくれた女性を幸せにすることを念頭に置きます。その一方で、愚か者は何一つ悪いことをしなくても報われることはありません。何も気づきませんので、恩返しすることはありません。私は自分のことに立ち入りし過ぎたように思えますので、悪意を持つ人々の手にかかったら、自分がそうだとすることに気づくに違いありません。自分の性向がどうであっても、良心は私に味方するはずです。結婚それ自体が大きな嘲笑を免れないというのは、若い女性を気遣う人たちが行なった愚かな選択であるかどうかは、私には判断しかねます。しかし、双方の情熱に動かされ、相手方の寛大さによって仕上げられた精選された愛情は、片方に数多くの素敵な事柄が添えられるに違いありません。そして、こういった二人はほかのすべての人たちのお手本になります。この件についてのお話は二通の手紙を紹介することで終わりにしたいと思います。一通はこれをまとめる方法を熟知している恋人のもので、もう一通は、資産は少ないがとても懇懇なライバルからの手紙です。抜け目のない人物は、彼が言うには、すでに父親であるかのような恋をしており、情熱を傍らに置き、単刀直入です。

前略

当方の弁護人が貴女の資産目録を精査いたし、いかほどか検討いたしました。貴女の、そして男の直系相続人のものとなるとのことです。しかし、こういった跡継ぎがない場合には、エドワード叔父が相続人になるとのことです。したがって、(貴女には残余権がありませんので) 限嗣相続財産の減額はできないようです。ということは、単純不動産権がある私の資産は、継承譲渡権によって、男女を問わず、私との間に生まれる子供たちに与えられることになります。だが、私たちの子供が男子でない限り、貴女の不動産を相続することにはなりません。事情はこういった次第ですし、貴女は慎重な方であり、世間知には長けていらっしゃるしますので、私の立場は十二分にお分かりいただけるものと推察いたします。

草々

ティー・ダブリュー

もう一方の資産はこの紳士よりも少ないのですが、つぎのように自分の気持ちを伝えます。

前略

小生の資産状況を貴女の弁護人に提出いたしました。そして、当方の弁護人には、貴女

の確実な安楽と利益を願って申し立てる貴女の友人たちの条件には異議を唱えないようにと申し渡しておきました。なぜなら、小生はできもしないことを言い募るつもりは毛頭ありませんので。

草々
ビー・ティー

この女性の親族が集まってこれについて議論しました。後者の手紙に大いに魅せられた彼女は、エドワード叔父も一銭も出せないといった紳士を彼女にふさわしい相手と認めることになりました。私の希望としましては、彼女は最初の眠りの浅い夜を利用して、自分は結婚をありきたりの取引と考えてはいないことをビー・ティー氏にしっかり分からせて欲しいものです。

第523号 1712年10月30日（木曜日）

【アディソン】

いまはリュキアの神託やら、いまはほかならぬユッピテルより
遣わされた神々の伝令やらが疾風を抜けて恐るべき命令を届ける。
なるほど、それが天上の神々の仕事だ。そんな気遣いが人々の平静を
乱すのだ。（ウエルギリウス）¹⁾

私はいつもわが同胞に才能がある人物が台頭してきていることが分かると非常に嬉しく思います。そこで、ポープ氏が最近出版した作品集を大いに満足しながら読み終わりました。この作品集には彼の素晴らしい資質が数多く伺えます²⁾。また、「和平の可能性」の詩にも同種の満足感を覚えました³⁾。この立派な業績には後援者から相応の褒美が出るものと思います。私としましては、この著者が異教の神学の寓話に頼らなかったこと、さらには、その種のことをほのめかすときには、単なる寓話として言及していることにとりわけ満足しました。

現代の著者の多くは、往々にして学識がオウィディウスの『変身物語』を超えることはなく、偉人を賛美する方法を知らず、必ずと言っていいほど偉人の行為を詳しく語るとき子供っぽいお話の寄せ集めとなってしまいます⁴⁾。この手合いの著者が書いた貴婦人の詩を読むと、当該の人物についてというよりも、ヴィーナスとかヘレネの詩になっていることに気づきます。私はある偉大な英雄を大いに称えた詩集を知っていますが、美しい詩行

1) ウェルギリウス『アイネーイス』第4歌 176-179行。

2) ポープ『髪の毛盗み』参照。

3) 王璽尚書ジョン・ロビンソン主教に宛てたトマス・ティッケルの詩。トマス・ティッケル（1686-1740）はアディソンに高く評価された詩人。

4) おそらくジョン・デニスへの酷評。デニスは『ラミイの戦い』の序文でマルバラ公の行動を擁護していた。

をいくつか聞かせて欲しいと頼みますと、賞賛者はアポロの言葉とかポリュペモスの描写が繰り返されるだけなのです。著者にテーマを提供している英雄の行為を詮索してみると、川の神の功績が並べ立てられていたり、最初から最後まで強制的に災いをなす復讐の女神の道行きにつき合わされたりします。学校時代には、異教の神学の学説を熟知する必要がありますし、異教の神を登場させることで、テーマを活性化させたり警句を引き立てたりすることが出来るかも知れません。しかし、真実をちりばめた雄々しい賛辞を書くときには、ジュピターやユノに頼ることほど馬鹿げたことはありません。

どんな思考も公正でないものは美しくなく、真実、少なくとも真実と思わせるものに基づいていないと美しくはありません。

擬英雄詩では、異教の神話を活用することは許されるだけでなく優美なものとなります。なぜなら、古代の人々の空想上の趣向を低次元の主題に適応させ、同時に、現代の著者のそういった奇抜な趣向を嘲笑することによって、楽しませるのがその目的なのですから⁵⁾。真面目な作品により詩的な言い回しを付与するために、古典的な伝説を受け入れる必要性があるとお考えならば、フィリップス氏の田園詩をお勧めします⁶⁾。ありとあらゆる田舎の神々だけでなく、牧神や森の精や水の精がいなければ生き残れたとは思われないでしょう。フィリップス氏は古代の寓話の代わりにわが国の羊飼いたちの間に流布していた迷信的な神話を用いることで、作品に新たな生命とさらなる自然美を付与していることが分かります。

ウェルギリウスやホメロスは神々の行為と偉業を織り交ぜることで英雄たちに敬意を表しているのかも知れません。しかし、クリスチャンの著者が異教の信条に即して書き、オイゲン公を軍神マルスの寵臣にしたり、ベローナとヴィラル元帥⁷⁾を結び付けたりすることは、16歳を超えた詩人においては、まったくもって幼稚で許されることではありません。こういった取るに足らない古代の寓話に頼ってはいは、真実を描写し、そこに光を当てるだけの十分な才能の高まりがないわけです。バックスやアポロの素晴らしい描写は出来るかも知れませんが、同時代人の特質を語る方法を知らないのです。

それゆえ、この愚かな方法をやめさせるために、私に与えられている観察者の職権を利用して、つぎの布告を出すことにします。

あらゆる状況から判断して全体的な和平の時が近づいているゆえに、この喜ばしい時期に才能を発揮したいと考えている聡明な方々がかなり多く存在しているとの情報を入手している次第。彼らにはくだらない作品を吐露しないでいただきたい。これを懸念する確かな根拠がある。そこで、小生はこの和平について書き留めたいと考える人々には、自分がクリスチャンであること、そして、その教理問答を自らの詩のために犠牲にしないことを厳守してもらいたい。そのためには、まずもっていかなる場合にも太陽神アポロに頼らず

5) おそらくポーブ『髪の毛盗み』に対する賛辞。

6) 第400号参照。

7) ヴィラル元帥はドゥナンの戦いで勝利をおさめ、国を救った。

に詩作に励んでいただきたい。また、ミューズ9女神の誰にも名指しで助けを求めないことが肝要。同様に、マーキュリーに和平に関する伝言を持たせて派遣することを厳禁する。そして、ミネルヴァには決してこの大仕事の全権大使の責任を負わせないことが肝要。さらに、先の戦争で亡くなった数千人の死に運命の女神を関わらせてはならない。この死はすべて弾薬と弾丸というクリスチャンの方法のためと言えるのだ。それゆえ、私はどんな言い訳があるにしろ、押韻のためでない限り、運命の女神に人の生命の糸を切断させることを固く禁じる。ネプチューンは我々が現在準備中の詩において多くの責任ある仕事を抱えると危ぶまれる根拠があるゆえに、隠喩とか直喩とかほんの短い引喩で用いない限り、これを登場させることも禁じる。かりに隠喩等で登場させる場合も、細心の注意を払って用いることが肝要。異教の神々の兄弟関係にもすべてこれと同じルールを適用することを強く望む。あらゆる詩に情熱を注ぎ、ジュピターが雷鳴を轟かせ、彼のものではない何らかの権限を発揮するのが私の考えである。要するに、異教の行為者、あるいは、良心に照らして信じることが出来ない事実は一切持ち込まないことを期待する。ただし、わが国の女性の詩人にはこれは敷衍しない。彼女たちは依然としてまるで本日の紙面が書かれたことがないかのように、異教の神々や女神を存分に抱えているのだ。

第524号 1712年10月31日（金曜日）

我々は群衆とともに進む。(セネカ)¹⁾

私は最初に頭の中で夢や幻について書こうとしたとき、自分自身の創案でないものは何ひとつ活字にしないことを固く決意します。しかし、最近、勤勉な夢想家諸氏がこの種のことを知らせて来ています。彼ら及び私の名声のために、私はこれをこれまで抑えて来ました。もし私の手元に届くこれらをすべて活字にしていましたら、私の思索する著作は幻の著作以外の何物でもものなくなっていたものと思います。寄稿者の中には実際とても控え目で、自分には立派な夢を見る能力が欠けているとの言い訳をする人たちがいます。たとえば、手元にまだ15歳に達していない若者の夢があります。また、上流紳士の夢とか婦人の夢もあります。こういった類の夢の場合、通常、夢想家の年齢や身分や性別によって斟酌されます。日々私の元に寄せられるこの夢の氾濫を防ぐために、夢想家すべてに、エピクテトスが極めて簡潔に述べているつぎの助言を適用したいと思います。この哲学者は「あなたの夢を語ってはならない。なぜなら、あなた自身は夢を語ることで楽しいかも知れないが、相手はそれを聞いて喜びはしないのだから」²⁾ と言っています。以上簡単な前置きを述べたのちに、これらの夢はそれぞれ書き手が異なっていますが、私が最近公表した夢について公平に扱わなくてはなりません。これまでに公表した夢に、本人が身元を明らかにしており、私が承知する限り、予知能力を備えていると思われるスコットランドの

1) セネカ『道徳書簡集』99.17

2) エピクテトスは帝政ローマ期後期のストア派の哲学者。

ある人物から寄せられた夢を付け加えたいと思います³⁾。実際、この夢にはジョン・パニヤンの精神といったものが伺え、同時に、当人が意識していなかったある種の崇高さが伺えます⁴⁾。わがすべての読者の趣向に合い、同時により深遠な人々想像力を楽しませることは間違いないと考えますので、この手紙を公表することにします。とはいえ、この時期に公表を考えている夢はこれで終わりにします。

拝啓

私は、先週の日曜日の夜、その日の午後、教区教会で聞いた素晴らしい説教から美德の正当性と悪徳の大いなる愚行について真剣な想いに駆り立てられました。いろいろなお話がありましたが、この牧師さんによると、悪魔が口にする誘惑はすべて私たちが狂人か愚者のどちらかだという想定に基づいているか、私たちをそう仕向ける意図があつてのことだそうです。私たちの目の見える関心事に明らかに反するような場合には、このような押し付けを認めることはないとのことでした。彼の説明と主張には非常に説得力があり信念に基づいていましたので、長時間にわたって新鮮であり、記憶に残りました。そしてついには考えることでへとへとになり、強力な眠気に襲われたのでした。その一方で、空想力はこの件を中断させることを嫌がり、つぎのような幻を紡ぎだしたのでした。

どうやら眠りから目覚めたところで、眠りについたときのことは記憶から抜け落ちていました。私がいる場所は広々とした平原で、踏み固められた数本の道をあちこち行き交っている人たちであふれていました。一直線の道はほとんどなく、道はほとんどが迷宮のように曲がりくねっていました。でも、これらの道は最後にはすべて出口がひとつになっているようでした。そのため、正反対の道を進んでいるように思えた多くの人々が最後には互いにさほどびっくりした様子も見せず顔を合わせるのですでした。

平原の中央には大きな泉がありました。人々はこれを「自己愛の泉」と呼びました。この泉から小川が2本東と西に向かって流れ出ていました。1本目の小川の名前は「神智」で、水は素晴らしく澄んでおり、素晴らしい効能がありました。もう1本は「世智」で、水は濁っていましたが、流れが止まったり澱んだりしていませんでした。絶えず激しく混ざり合っていたのです。そのため、私があとで触れる旅人たちは水が汚れているとか濁っているといったことに気づきませんでした。この水を飲んだ人たちは酔っ払い、目の前にあるあらゆるものを見間違ふのでした。2本の小川は泉の近くで数多くの道に分かれていました。直線の道も曲がりくねった道もあり、人々はそれぞれ出口に向かってその道を進むのでした。

それぞれの道では、大勢の人たちが、時折、元気を回復しその旅を進める資格を得るために、近くを流れる小川の水を飲んで見えました。彼らは水を飲むことで自分に対して見違えるほど勇気を取り戻し安心しました。何本かある直線の道はずいぶん先ですべ

3) ダンカン・キャンベルへの言及と考えられる。

4) 当時としては数少ないジョン・パニヤン(1628-88)への言及。

て出口がひとつになっていましたが、そこにはダイヤモンド製の高い柱があり、その柱は道に太陽光線のように明るい光を投げかけていました。柱から放たれている光線は確実に人々の美德と共鳴しており、人々に美德を持つようにと誘っていました。この光線を繰り返し浴びることで、これに魅せられた人々は柱に向かって先を急ぎました。ついにはこの光を見詰めるのが自然な心持ちとなり、この道からそれることはなくなるのです。これで光り輝く本体へ向かい、これを見詰めると神への感謝の気持ちが募って来るのです。

曲がりくねった道の出口には、大きな黒い塔が建っており、その中心部から雲の上にまで達する炎が絶え間なく流れ出ていました。この炎によって、平原一帯はとても明るくなり、太陽光線を凌ぐ明るさを放つ時もあり、堅固な柱の光線を圧倒するほどでした。だが、その後私が観察したところでは、黒い塔から発せられる光は、堅固な柱の光を減少させるためではなく、時折直線の道からわき道にそれ、光り輝く柱を完全に見失った人たちのためにあるようでした。どちらかというとき焦がすような黒い塔から発せられるこの巨大な光は、大体、人々を照らし出し、各人にふさわしいところへと急き立てていたのでした。

黒い塔の周りには不格好な形をした巨大な怪物が無数いたように思えました。この怪物たちは大きな網を持っており、曲がりくねった道に絶えずその網を張っていました。そして、時々、近づいて来た人々を捕え、彼らを壁越しに炎を上げて燃えている塔に投げ入れていました。もはや人々の姿は見えず声も聞こえて来ませんでした。

怪物たちは時々直線の道にも網を張り、落伍者を捕まえていました。落伍者は、そばを流れる小川の水を飲み足らないために、目がかすみ、道に迷ったのです。辛うじて捕まらないで済むこともありましたが、それまで直線の道で元気一杯だった彼らがそんなに不幸だったのかどうか私は聞き出せませんでした。

こういった不思議な光景について真剣に考えていましたが、曲がりくねった道を進んでいる旅人の一団が目に入りその考えが中断させられました。彼らは私に近づいて来て、一緒に行こうと言い、ただちに歌い踊り始めました。彼らは私の腕を取ったまま、進んで行くのでした。かなりの距離彼らと行動を共にしたところで、私は黒い塔を見失っていることに気づき、とても驚きました。しかし、周囲を見回してみても何も見えませんでしたので、私の最初の幻は単なる夢であり、実際にはそんなものは何もなかったのだと考え始めました。そして、存在しないものを見ていると思えるなら、現在私の心に浮かぶ幻想を抱き、実際に存在しているものを見ないこともありうると考えました。世智の水が私に与えた効果によって、私はこの思いを確信しました。再びこの水を少し飲んだとき、私は頭にとっても明確な効果をもたらしていると感じたのです。この水はあらゆるものを混乱させ調子を狂わせるように思われました。この水を飲むと、私は突然、魔力とか魔法に疑いを持たなくなったのです。内心どうしたらいいのか、誰に当てはめたらいいのかと考えていたとき、少し離れたところで手招きをして、私に来るようにと合図を送っている人がいることに気づきました。私はその人に大声で「道が分からなかったのです」と言いました。するとこの人が私に聞こえるように、これ以上そこにいると私を捕まえようとして張ってある大きな網にかかってしまうので、とにかくその道から離れなさい、と言いました。差し迫った

明らかな危険に気づかないほど見えなくなっている、つまり、困惑している私に、彼は驚いていたのです。彼は、私とその道から離れたらすぐに、やって来てもっと安全な道に連れて行ってあげると、請け合ってくれました。私が言われた通りにすると、彼は手のひらに「世智」の水を汲んで持って来てくれました。私にとって、この水はとても役立ちました。というのは、私の目が澄んで来て、目の前にある大きな黒い塔がはっきりと見えたのです。私のすぐそばにある大きな網に震え上がり、後ろも見ずにあわてて走って行きました。すると、恩人は、あなたは間一髪で逃げおおせたのです、これまであなたが飲んでいった水は魔法の水で、その水を飲まなければ、その醜さや卑しさに衝撃を覚えていたでしょう、今では、あなたが行動を共にしてきた盲目の愚か者の一団のそばに、その他大勢の人たちが見えるかも知れませんが、彼らは全員、危険がないという魔法をかけられているに過ぎないのです、と言うのでした。少し離れたところを見てみると、大勢の通行人がいます。彼らはこの魔法の水で目が見えなくなる立派な分別の持ち主なのです。彼らの視界から黒い塔は消えることはなく、見上げればいつでもその塔が見えます。彼らはまるで常軌を逸しているかのように、あらかじめ悲惨な破滅という思いを心配せずに、下を向いてはすかいに進む方法を知っています。彼らはつむじ曲がり、快楽は差し控えるというよりもむしろ大好きです。彼らはすべて運任せで、眼前の苦難や苦悩に敢然と立ち向かいます。

魔法の水は一切口にしません、魔法の惑わせる道を進む人たちもいます。彼らが曲がりくねった道を選ぶ方法を見てご覧なさい。彼らはしばしば黒い塔を背後に置いて、時々かすかに見える光り輝く柱を流し目で見えています。この愚か者たちは別のものにこれ以上の影響力や光があることを知らずに、この状態で満足しています。この道は「迷信」つまり「人の作り事」という名前がついています。彼らはその場が定めているルールをほとんど顧みずに、別に独自のルールや指示を作り出し、それが自分たちの進行に役立つのだと考えています。恩人はその他多くの愚か者を教えてくれました。それを知って私はこの場所にいることにとっても不機嫌になりました。やっと恩人は私を真つ当な道へ連れて行ってくれました。そこで私は真の堅実な喜びを見つけ、柱がすぐ近くに見えるところまで進む間終始その喜びを享受しました。柱のところで、満足感には収容できないほどになりました。満ち足りた気持ちをしっかりと抱き留めようとしたとき、突然目が覚めました。この愉快的な夢が消えたことはさほど悲しいことではありませんでした。

9月29日、グラスゴーにて

第525号 1712年11月1日（土曜日）

【ヒューズ】

節制と美德へと導く愛を人々の大望とすべきだ。(エウリピデス)¹⁾

1) エウリピデス『断章』671

常々私の思索が町でどんな風に受け止められているか考えています。とりわけ結婚に関する論考が好評を博していることを嬉しく思います。ドクターズ・コモン²⁾の友人によると、このところその地ではいづれにも多くの許可書が出ているとのこと²⁾。同様に、数名の粋な方々もできるだけ早く所帯を持つことにしているとの情報も入っています。そのうちの一人は、もし私が（今そうしているのですが）結婚後も社交界に出入りでき、生涯を共にする女性を優しく扱っても恥ずかしく思う必要がないようにしてくれれば、すぐにも結婚する心積もりがあると言っています。

この件についてはほかにも手紙が来ています。それによると、私は色事の世界に革命をもたらそうとしているのだ、そして、その結果、これまでの意気盛んな才人や好色家の大部分が姿を消すことになるということです。結婚を恥じらっている人はもはやおどけた仲間のからかいを悩むことはなくなるということです。また、結婚したのは女性相続人を略奪するためだったのだと認める必要がありませんし、甘い夫という馬鹿げた名前を避けるために、妻を冷遇しているのだと言い張ることもありません。

実際のところ、かつてユーモアということで私たちの間に流布していた多くの著述について、当時の才人たちの間では嫡出をひやかすという暗黙の了解があったのです。結婚生活は風刺や皮肉の対象だっただけでなく、笑劇や喜劇における興味深い標的となったのです。粋で陽気な会話を楽しむあらゆるクラブにおけるお決まりの冗談としてはこれに勝るものはありませんでした。当時の気取った批評家たちの間では、「真面目な人」という呼称は「生気を欠いた人」を意味したのです。これとほぼ同じ頃、他の言語ではうまく表現できないと断言する人もいますが、英語のとても上品な言葉である「気立てのよさ」が邪推されるようになり、原義を換えられ、愚行と同じように原義とはかけ離れた意味に解釈されるようになったのだと思います³⁾。

実を言いますと、執筆を通して物事に対する真の意味をできるだけ回復させることを私の大望としています。結婚についてはすでに何回かにわたって試みましたが、ここではこの件で思いつくことをもう少し付け加えたいと思います⁴⁾。

上品な紳士諸氏は、当世風の生活における絶対必要な装飾として愛人に勝るものはないと考えていると思われます。愛人のいないドン＝キホーテは葉のついていない木のようなものだ、と武者修行の騎士は言います⁵⁾。憧れの女性がいなかった今どきの流行紳士が鬘をつけずに正装したと主張するのと変わりません。詩をひけらかす人々はすべて見せかけの恋人なのであって、巧拙を問わず、とても詩人とは言えません。こんな人には気持ちを高ぶらせてくれる真のあるいは想像上のサカリッサ⁶⁾は存在していません。

2) ドクターズ・コモンはセントポール大聖堂の西端からテムズ川にいたる中間にあった。ここで結婚の特別許可書が発行された。

3) エドワード・チェンバレン『大ブリテン記録簿』（1708年編）37頁。

4) 結婚については、第33号、第479号、第490号、第522号などでも論じられている。

5) セルバンテス『ドン＝キホーテ』第1部 第1章。

6) サカリッサは、エドモンド・ウォラーが自作の詩の中でレスター伯の長女に与えた名前。

もし愛情が洗練されたものであるとすれば、夫婦間の愛情は非常に洗練されたものとなるに違いありません。遊びで心を奪われただけであって、おそらく顔立ち以外は何もわかっていない女性の目を引き付けようとする浅薄なわざとらしさと友および愛人として、自らの一生の伴侶に選ぶ人にとって大切な人になろうとする不変の努力とは比較になりません。前者は限らない浅薄な言動、愚かな手練手管、偽り、おそらくは蛮行の源となり、せいぜい、物腰に活気を添えるダンス学校の行儀作法の域を脱しません。後者は堅固な美德と感じのよい資質を生み出し、精神を磨く源となり、振舞いを向上させることになります。女性に対する愛の情熱は、非常に誠実なものであると、熱病の炎に似ていますし、妻に対する愛情は生命の熱のようなものです。

私はしばしば思うのですが、気立てのよい人が妻に宛てた手紙と色男が愛人に宛てた手紙を比べて見ると、前者は、文体にバラツキがあるものの、飾り気のない表現をまとった利点、友情、優しさ、そして安定感において、熱烈な喜びの言葉、大げさな賛辞、そして卑屈な愛慕の念よりも優れています。美しいナルシッサの飾り棚を物色することが許されれば、数名の崇拜者から来た手紙の山が同じように注意深く保管されているのが分かります。おだてられている彼女以外の人がこれを読むと気分が悪くなるに違いありません。これを、良識を備え上機嫌に友人たちと交際する聡明なベネヴォラスがとても大切にしている妻に宛てた手紙と比べると天と地の違いがあります⁷⁾。ベネヴォラスは、生活のあらゆる場面で、公私とも、素晴らしい資質と望ましい装飾を備えていると思われます。家の外では尊敬、尊重され、家の中では愛され幸せです。彼がここから手にする満足感は、不断の充足感となり、表情は生き生きとしたものになり、機知には活気が添えられ、会話はユーモア溢れたものとなります。彼が引き籠っているのを見たことのない知人たちでさえ、その幸福を共有します。彼が不変の友人でありこの上なく心地よい仲間でいられるのは、ひとえに彼が最善かつ最愛の夫だからなのです。

家庭生活におけるこのような素敵な例について考えると、大きな喜びが伴います。共通の関心や愛情で結ばれているだけでなく、向上や喜びや気晴らしに共通の趣向を持っている洗練された心の持ち主である二人を見ると、夫婦の幸福は最高度に高められるように思えます。当時最も洗練された著述家のひとりであったプリニウスは、妻の叔母ヒスプラに宛てた手紙の中で、私がこれまでに会った最も好ましい家族の一端を書き記しています。本日の紙面はこれの翻訳を紹介して締め括りたいと思います⁸⁾。私が述べましたように、美德としてだけでなく装飾としての夫婦の愛が思いやりを込めて描かれていることに、読者は気づかれることと思います。

ヒスプラ宛てのプリニウスの手紙

貴女と貴女の素晴らしい兄上との間にある深い親愛の情を思い出し、また、最良の叔母

7) ニコルスによると、ここではジョン・ヒューズ氏が理想的な夫とされていた友人のスティールに敬意を表したとのこと。

8) プリニウス『書簡集』4.19

としての優しさを示すだけでなく、最良の父としての気持ちを注いだ兄上の娘さんを、貴女が自分の娘のように愛していることを承知していますので、彼女が父、貴女、さらには貴女と彼女の祖先に値する人物であることを立証しているとお聞きになれば大きな喜びになるものと確信します。彼女はこの上なく純真であり、並外れた質実さの持ち主です。彼女は美徳の確実な証として、私を愛してくれます。これに加えて、私に対する愛情から手にしているのですが、彼女は学問に対する素質を備えています。彼女は私の著述を読み、勉強し、暗記させます。私が訴訟事件に関わるときに示す彼女の心遣い、そして、終わったときに示す喜びをご覧になれば貴女は笑みを浮かべられることでしょう。彼女は、法廷での成り行き、審理の様子、判決の結果についての第一報を手に入れる手段を承知しています。私が公開の場で朗読するときには、彼女は必ず密かに片隅に陣取り耳を傾けます。そして、私が賞賛されると大きな喜びを覚えます。時々、彼女は私の詩を歌い、それにリュートで伴奏をつけます。彼女に先生がついているわけではなく、愛情が最良の先生なのです。こういったことから、幸福は永続的でより一層高まることは確実なことだと考えています。彼女の愛情は次第に衰えて行く私の若さや容姿に基づいているのではなく、私の誉れと名声という不朽のものに愛情を感じているのです。幸せなことに、ほかでもない貴女から教育を受けた彼女にこれ以上望むことは何もありません。彼女は貴女の前で徳高く慎み深いあらゆることを修得したのです。

私を愛するようになったのも貴女の勧めがあったからなのです。と言いますのも、貴女は常に私の母をととても大事にしてくださり、貴女は喜んで私の幼い時から、私を教育し、私を褒め称え、いつの日かどんな妻がふさわしいかとまで教えてくださったからなのです。それゆえ、私たち二人の感謝の気持ちを受け入れていただきたいと思います。私に彼女を授けてくださったことへの私の感謝の気持ちと互いの喜びと至福を授与するものとして彼女に私を授けてくださったことへの彼女の感謝の気持ちを込めて。

第526号 1712年11月3日（月曜日）

【スティール】

手綱をしっかりと引き締めるがよい。（オウィディウス）¹⁾

若い紳士諸氏がつぎの手紙にあるような極端な行動を取ることは、私はどんなことがあっても嫌です。そのため、私の観察者としての威厳がすっかり損なわれるような挑発がない限り、自ら進んで彼らを非難したくありません。こういった不快な人物たちの無分別な行動は、ロンドン市とウェストミンスター市との境界にある関所に陣取っている検閲官の監視下に置きます²⁾。非道な行為を報告するようにと私が任命しているこの人物の能力、決意、そして誠実さをとても信頼していますので、人前でのマナーの改善と人類全般に関し

1) オウィディウス『変身物語』第2巻 127行。

2) 検閲官に関しては、第498号参照。

て個々人の教育にとって必須の注意事項をまもなく知らせてくるものと確信しています。本日の紙面は、上述の手紙と信頼できるわが友ジョン・スライ氏³⁾に与えた任命書のコピーだけを載せることとします。任命書には、ここで述べられている人たちだけでなく寄稿者が触れている犯罪的行為に対して、私が所見を述べるために必要な事柄を知らせるように明記されています。

グレート・ブリテンの観察者元締めへ

少々なれなれしいことは認めますが、貴方のことを寡黙な方と呼ばせて貰います。

親愛なる寡黙な方へ

再びウィドウ・コーヒーハウスにやって来ましたが⁴⁾、ここから先回同様、貸し馬車の御者たちの振舞いについて報告したいと思います。多分私利つまり自らの利になることは一切念頭にないこの疲れを知らない紳士諸氏は、今でもお国のために日夜ボランティアとして精を出しています。事細かに列挙して貴方をわずらわせることはしませんが、背丈は6フィートほどで、年齢は20歳から30歳の青二才のことだけはお知らせしておかなくてはなりません。彼は、貴方がこの記事を発表されたまさにその日の午後4時から5時の間に、御者に支えながら、コヴェントガーデンのウィル・コーヒーハウスのそばを駆け抜けていたのです。この生意気な青二才は、御者の助けがないと御者席に座ることが出来ないのですが、厚かましくも貴方の観察者としての権威とか貴方が勧めるあらゆることを無視しているのです。私にはこの若者の正体は知りませんでしたが、この生意気な行為の目撃証人の紳士から今朝方問柄を聞きました。そこで、是非とも若いうちにつぼみを摘んでおくべきだと考えて、彼のことを取り急ぎお知らせします。私自身としては、テンプル法学院の同僚、学友、そして法曹界に生きる人々のことがとても気掛かりなのです。要するに、こういった輩が貸し馬車の御者の呼称で威厳を持ち目立っている訳です。こういった若者は野心に燃えていますので、愉快に過ごせるのは御者席だけとなります。しかしながら、彼らの中にはとても恥じらいを覚えていて、夜あるいは広々としたところでしか勉強ができない人がいるとお伝えできるのは私にとって言葉では表せないほどの慰めとなります。先日の夜、ある若い紳士がフリート街で猛勉強しているのが目に入りました。ちなみに、この勤勉な若者がそのうちに勉強で気が変にならないかととても気掛かりです。だが、彼の企てが大きくなるにつれて、神様が彼を守って下さることを願っています。テンプル法学院の別の学友は、先週木曜日、おそらく、さわやかな空気の中で熟考するためなのでしょうが、グレイズ・イン・レーンの一番奥まったところで勉強に打ち込んでいました⁵⁾。そこで、貴方にはとても控え目なこの二人の紳士をほかの人たちのためのお手本として記録に留めていただきたいと思います。そして、貴方が二言三言加筆していただければ、完全

3) ジョン・スライ氏に関しては、第187号参照。

4) ウィドウ・コーヒーハウスに関しては、第498号参照。

5) グレイズ・イン・レーンは、ホルボーンから野原に向かって北に延びていた。ここは空気が新鮮であることで知られていた。

に彼らの瞑想を思い止まらせることにはならないにしても、少なくとも、彼らが愚行の見世物にならないで済むことは間違いありません。なぜなら、貴方の手が入っていない寄稿の手紙だけでは、たとえそれがいくら啓発的あるいは気晴らしになるものであっても、威力を発揮しないことに気づいているからです。そこで再度お願いしますが、彼らの首の骨を守るためにも、是非とも貴方に手を入れていただきたいと思います。貴方が彼らを世間にさらすのを嫌がっておられることは承知しています。正直言いまして、誠実な両親の子供である若い紳士が誰であれ、人々の笑いものになることは非常に残念なことです。実のところ、彼らのことに関しては、最初はもう少し優しく扱っていただけると嬉しく思います。でも、公平な手段で功を奏しないとすれば、徹底的に厳しい手段を講じて改心させるしかありません。ろくでなしの愚行によって迷惑をこうむっている私たち数多くの有望な若者の評判よりも、懲らしめとしてこういった役立たずの若者を10人ないし20人罰した方がいいと思います。とはいえ、私は貴方にどうすべきかと指示できる立場にはありません。要するに、わが御者諸君が仕事を続け、私は通りで迷走しているのを見つけ次第、貴方の裁量で懲らしめることができるように、その人物の事務所番号と名前をメモしてお届けしたいと考えている次第です。

敬具

モーゼス・グリーンバック

追伸：わが御者の一人トム・ハマークロスは、現在、部屋の一方の端の法廷で弁護中ですが、非常に激しく、進んで聞き取りをしようとして両腕を振りかざしているところです。

ロンドン市とウェストミンスター市の境界で帽子商兼タバコ商を営むわが親愛なるジョン・スライ氏へ

貴君の居住地周辺では、法的には救済策のない、人心を乱し、不安を掻き立てる無秩序、公然たる侮辱や侮蔑、怠慢や迷惑行為が多発しているため、貴君に付与されている申し分のない才能、貴君の置かれている好都合な立場から考えて、貴君には上記不快な行為を観察する資格が十分にあると認められる。そこで、馬車および荷馬車で運ばれる人物や事物を、また、ロンドン市とウェストミンスター市を徒歩で往来する人々を厳しく監視するために午前9時から午後4時までの間、貴君にその権限を委任する。それゆえ、貴君はこの時間帯はデヴェルー・コートでの監視を怠ることなく、突然敷石を蹴ってくつろいで軽馬車に乗り込むすべての人の言動を監視し、旧友を無視したり、目を背けたり、よそよそしくしていたりしている場合には、速やかに報告していただきたい。夫婦して馬車に乗り込むときには、二人が互いに満足しているかうんざりしているか、また、見たところ二人は愛し合っているのか冷淡なのかを観察すること。名誉あるいは富を付与すると思われるすべてのことを注意深く見て、それが付与されなくてもそうであるかどうか報告していただきたい。徒歩で往来している人物に関しては、それで満足しているか、それにふさわしい服装をしているかに気を配ること。ただし、ヒールの低い靴を履き、皮の靴下留めという上品な装身具をつけて控え目にしている人物はしっかり見極めること⁶⁾。和平が近づいて

いるこの時点で、軍人のような帽子の気取ったかぶり方を追求している田舎の紳士の名前を書き留めること。中でも、御者に向かって、無理だと分かっているのに、急ぐようにと尊大に振る舞い、いざこざを起こし、罵声を浴びせる紳士の名前は忘れないこと。この上なく劣っている人たちが必ず秀でようとして精を出している御者席の若い紳士諸君の名前もすべて書き留めてもらいたい。裁判所の開廷期間中の午前中はウェストミンスターへ、その他の時は取引所へと流れる仕事によって変わる馬車と乗客のやりとりをすべて記録に留めること。以上の心得ならびにその他当任命書に含まれている極秘の条項を順守し、適宜その報告をしていただきたい。ここに署名捺印の上貴君をこの任に据えることを証明する。

観察者

第527号 1712年11月4日（火曜日）

お父さまったら、がくと落ちる人だとか、振る舞いが
 がくと悪い人なら簡単に見つけることができるに違いありません。
 お母さまに比べるのですしたら。でも、もっと良い人なんて、
 お父さまに見つけられるはずがありませんし、そもそも
 そんな方はこの世には存在しないのですから。(プラウトゥス)¹⁾

私は女性の読者ことをとても思いやりますので、女性の幸福とか平穩に関わることはどんなことであってもその公表を先延ばしにすることは出来ません。つぎに掲げる第一の手紙には既婚婦人の安らぎが、第二の手紙には未婚女性の至福が伺えます。私は感じのよい人から言い寄られることを至福だと考えています。昔の扇のイメージであるケパロスとプロクリス²⁾の物語を実に雄々しく作成している点では、この人ほど詩の物語を見事に当てはめているものを見かけたことはないと思います。それでは、二通の手紙をご覧ください。

観察者殿

所用があって町に来てほぼ3か月が経過します。用件を済ませたある日の午後、馬車に乗り、6年ほど前に裕福な市民と結婚した親戚の人に会いに行きました。彼女は在宅していましたが、主人は取引所に行っており、遅くとも1時間以内には帰宅するとのことでした。私たちはいつもの親しげな挨拶を交わし、田舎の友人たちのことをあれこれ話題にしてから、ピケット³⁾を始め、ゲームを2、3回やり、お茶にしました。貴殿に申し上げて

6) ニコルスによると、これはいつも黒い皮製のガーターを着けていた銀行家ジョン・ウォーナーへの言及とのこと。

1) プラウトゥス『スティクス』109-110行。小林 標訳（ローマ喜劇集4，京都大学学術出版会，2002年）を借用。

2) 曙の女神エオスに愛された狩人ケパロスは、貞節を疑って後をつけて来た妻プロクリスを獣と間違えて槍を投げて殺害してしまう（ギリシア神話）。

おこなくはなりません、彼女が結婚してから会うのはこれで二度目でした。結婚するまでは、彼女は私が通学した町に住んでいたのです。若さという無邪気さに親戚であるという事情が加わり、彼女が上機嫌であったため、しばしば学校の規律では考えられないほど馴れ馴れしく話を交わしたのです。馴染みになってしまうと、どんなに浮かれても、私たちには罪の意識はなく、私は先生をはぐらかすために作り話を幾度となくでっちあげ、言い訳をあれこれ捏造し、健康そのもののなのに何度も仮病を使いました。私は当時学校以外では病気になったことはなく、病気になるのは彼女と会えないときだけでした。私たちはこんな風にくつろいで3時間過ごし、すでに5時を回っていることに気づきました。私は、間もなく主人が帰って来ると思い、立ち上がって、明日の朝は早く田舎に帰らないといけないのですと彼女に言いました。彼女はしばらく会えませんかねと返事をしました。そして、挨拶を交わして別れました。私が帰宅して2週間もしないうちに、彼女の隣人から手紙が届きました。その手紙によると、あの致命的な午後以降、彼女が非常に冷たくあしらわれており、主人はあちこちのクラブの会員にさせられていると怒鳴り散らしているとのことです。従妹と私が始終一緒にいるのだと彼は聞きかじったようです。嫉妬深い耳にはいつも2倍のことが聞えるように、彼は彼を怒らせるに十分なことを耳にしたのです。嫉妬深い目がいつも拡大鏡を通して見るように、彼の見ている私はまだひげもはえない若者であるはずはなく、私より10歳年上のテンプル法学院の快活な紳士と思ったに違いありません。そのため、家に入ってくる勇気がなく、私が帰ったことを気遣う勇気もなかったのだと思います。彼ははっきりなしに妻に今度はいつ会うのだと質しているのです。観察者殿、このような場合どうしたらいいのでしょうか。私は彼にお会いするためにずっと待っていたのだと手紙を出しました。すると、彼の返事は、それは彼女のごまかしに過ぎず、私の言うことを信じることが出来ず、信じもしないということでした。別れのキスは彼を非常に苛立たせ、彼の思い違いを確かなものにします。思い出しますが、ベン・ジョンソンは、ある喜劇で、外国人に「それにしてもイギリス人の勇気は向こうみずと言いたくなるな。自分の女房の縄をはずして自由に男に会いに行かせるとは」と語らせています⁴⁾。一般的な挨拶の習わしは私の好意を認めます。そうでないとすると、何が許され何が駄目なのかルールを定めていただきたいものです。観察者殿、貴殿が想像できないほど、私はこの気の毒な夫人の不幸を心配しています。主人が今回の出来事を冷静に考えられるように、何卒この手紙を貴紙に掲載してください。徳高い女性が安心して一生を過ごせることはとても重要なことです。彼女は気難しい主人が求める（わが国の一般的なルールよりもはるかに厳しい）ルールに従います。今回の出来事から私はアテナイの僭主ペイシストラストがこのような場合非常に寛大に振る舞ったことを思い出します。妻から熱烈に娘を恋している若い紳士が通りで彼女に出会ったとき、人前でキスをしたからという理由で、その男を死刑にするようにとそそのかされたとき、ペイシストラストは「友人にそうすると

3) ピケットはカードゲームの一種で第434号にも登場。

4) ベン・ジョンソン『ヴォルポーネ』第1幕第5場100-102行。小田島雄志訳（エリザベス朝演劇集Ⅱ、白水社、1996年）を借用。

したら、敵にはどうするのかね」と言います⁵⁾。貴殿をこれ以上わずらわせませんが、この出来事のせいで、徳高い彼女が惨めな生活を送ることにならいかとても気掛かりなのです。私たちは縁戚関係にあり、やましいことは何一つしてなく、彼には嫉妬する理由は何もないのです。最後には彼は過ちを認めたとしても、人はスキャンダルには飛びつきますので、なかなか信じてくれないのではと危惧します。この率直で誠実な手紙をキュベレに関するオウィディウス⁶⁾の話を引用して活力を添えたいと思います。乗り合わせた船がテヴェレ川の河口で座礁し、船を進めることが出来ませんでした。そのとき、不貞の嫌疑がかけられていたのですが、処女クロードディアが少し引いただけで船が持ち上がったのです。この話は『暦』第4巻に登場します。

神々の親よ、涙ながらの女性が口にしました。
 報いなのか罰なのかと、ああ、私の祈りをお聞きください。
 もし私の乙女としての輝きがみだらで汚されるようなことがあれば、
 神の報いとして私の運命を受け入れます。
 だが、もし私の純潔が汚れを知らないのであれば、
 女神よ、あなたは私の無垢を主張してください。
 この上なく高尚な有徳のルールが支配しているあなたは、
 汚れのない乙女の言うことを理解してくださいます。
 彼女は語り、晴れやかな驚きの表情を浮かべてひもに手を触れたのです。
 (無数の目が真実を立証しました。)
 哀れんでいる女神は、すぐに応じ、意気揚々とついて行き、
 彼女に名誉を添えました。
 一方、それまでの汚名を恥じているクロードディアは、
 ゆっくりとした厳粛な歩調で黙って立ち去りました。
 でも、神が驚異によって美德を証明したのだが、
 なおも完全に不信の念を取り払わない人たちもいたのです⁶⁾。

敬具
 フィラグノーツ

観察者殿

つぎの新聞で同封の手紙を活字にしていただけると、思いつめた恋人としてはとても喜ばしいものと思います。貴殿もご存じの『変身物語』では、プロクリスは狩りを楽しむ夫からのを外すことのない槍を射られたとのこと。森で過ごす時間が長いので、彼は、

5) プルタルコス『警句』(モラリア, 189C)。

6) オウィディウス『暦』4.319以下。

罪のない狩りをしているのだという口実で、とあるニンフを追い掛けていたのだ、と彼女は疑いました。疑いを抱いた彼女は、彼の行動を監視するために木々の間に身を潜めたのです。彼女が隠れていると、狩りに疲れた夫は彼女に聞こえるところまで近づいて来ました。暑さで気を失いそうになった彼は、「ああ、なんとさわやかなそよ風か」と大きな声を上げました。

「そよ風」という言葉を女性の名前と思った不幸な彼女は、茂みの中で動き始めました。それを鹿と思った夫は槍を投げ、彼女を殺害したのです。扇に描かれたこの話は、私がある婦人にプレゼントしたのですが、詩情を募らせる機会となりました。

ああそよ風よ、とアイオロスの羊飼いは言ったのですが、そのとき、
 プロクリスは人目につかない木陰で息を潜めていたのです。
 ああそよ風よ、美しいデリアは叫びます、そのとき、
 足元には息絶え絶えの愛人が横たわっています。
 ほら、喜ばしいそよ風が彼女の周囲に迷い込み、
 彼女の口元そして胸元に降り注ぎます。
 デリアに見守られながら、この慰み物は死を迎えているのです。
 あの伝説の槍は深い傷を負わせはしませんでした。
 贈与者にとって、二つの贈り物が破壊的なのです。
 二人の恋人は等しく愛する人と共に倒れます。
 だが、この晴れやかな無辜の破壊者は生きます、
 手当たり次第の傷を受けて、
 また、彼女が与えた傷にも気づかないで。
 彼女は目を皿にしてこの話を見ます、そして、
 恋人が息絶えるとき、プロクリスに憐れみをかけるのです⁷⁾。

第528号 1712年11月5日（水曜日）

【スティーラー】

彼女はいつもの不屈の精神で痛みを耐え、
 呻き声ひとつあげなかった。(オウィディウス)¹⁾

観察者様

あなたにお手紙を差し上げています私は、名誉を傷つけられている女性です。私の不幸を悪化させていますのは、この無礼が大多数の人々から見逃されているということです。考えられないほど苦痛をもたらすのですが、一般的にはそのように見なされていないわけ

7) これはポーブによる。

1) オウィディウス『変身物語』第9巻 163行。

です。私は悩みを人々から隠してきましたが、今ペンとインクと紙を前にして、貴方に打ち明け、私およびすべての女性を嘆き悲しませるのは何かということをお示しすることにしました。貴方はこれまでに特定の婦人の苦難についてはしきりに触れてられました。でも、貴方は男性の好き勝手を率直に指摘する思索ではいずれの場合にも、私たち女性がどうしても男性と交際する場合に欠かすことができない愛ということで、私たち女性が強いられる理不尽な監禁状態についてはこれまで触れておられないと思われます。独身主義というものは私たちの国の大きな悪弊です。独身男性が不道德な行為に耽溺することは、あまり徳の高いものではなく、長い間未婚でいると、女性は嘲笑的になります。私たちの国に最大の不品行を生み出す根源となっています。貴方がお約束なさった婦人の蔵書の一覧を明らかにされていませんが²⁾、私たちが自ら選んで良書を読んでいることをお示しするために、この機会に、エチャードの『ローマ史』³⁾から1、2節引用したいと思います。第2巻44頁で、アウグストゥスは戦争が終わってローマに帰還したとき、高貴な身分の数多くの青年が未婚であるとの苦情を寄せられた、と筆者は述べています。すると、皇帝は全騎士を集め、既婚者と独身を分けて、前者に特別の敬意を表しました。だが、後者には、そうです、独身者には、お前たちの生活と活動はとても特異なものであったので、お前たちをどう呼んでいいかわからない、と言ったのです。つまり、男らしいことは何もしないので男とも呼べないし、彼らの努力にもかかわらず市は減じるかもしれないので市民とも呼べないし、ローマの名前を根絶する積りなのでローマ人とも呼べないということでした。そして、家来に優しい思いやりと愛情を示すために、続けてお前たちの人生はローマの栄誉と偉大さに致命的な結果をもたらすので、罪をすべてかき集めてもお前たちの罪には匹敵しないと言わざるを得ないと言ったのです。彼らは、当然生まれてくるはずのものを認めないという点において殺人の、先祖の名前と名誉を途絶えさせるという点において不忠の、不死の神々と人間性から彼らに捧げられている最重要なことへと向かう彼らの血統を絶やすことにおいて冒瀆の罪を犯しているということでした。その結果、彼らは法律に違反するという点において政体を消滅させ、国を不毛かつ荒廃させることによって国を裏切っているのです。それどころか、市から住民を奪うことで市を破壊しているのです。こういったことはすべて、美德とか節制といったものからではなく、文明化された政体では奨励されるべきでできないみだらか放蕩から生じているのだということを彼は認識していました。この偉大な皇帝が公正かつ憤慨して扱った若い名士たちの行動について長々と書き留めることはありません。しかし、この町でどんなことが生じているかわかっている人は誰でも、夜中じゅう馬鹿騒ぎと放蕩に明け暮れ、昼はそれに備えているだけだと考えるのも当然です。これらローマ人が無邪気に過ごすときといえば眠っているときだけであり、眠りにつくのは不節制で疲れてぐったりしたときであり、それもひとえに不節制を繰り返すために眠ったことは間違いのないところです。もし貴方が観察者としての義務を

2) 「婦人の蔵書」に関しては、第37号、第79号、第92号、第140号参照。

3) リンカーン参事会員ロレンス・エチャードが、1698年、『ローマ史』を出版した。

果たされるなら、誕生、結婚、埋葬の数を注意深くお調べになられることでしょう。死者の中から未婚のまま亡くなった人を差し引き、その間に生まれた男女の数を割り出しますと、独身のまま亡くなった人の数から、いかに多くの人々が未婚であったか推定でき、時代を修正するための有益な計画を提起できるものと思います。私はこの忌まわしい放蕩に真面目に付き合う忍耐は持ち合わせていません。今お手紙を差し上げていますように、私たちの国の若い紳士諸氏の人前でのある種みだらな物腰が頭に浮かんできてしまいます。そして、彼らにはまさに節度へのはっきりとした侮辱である苛立ちが伺えるのです。こういったときの尊大な表情には非難の表情が返って来ます。しかし、彼らの目が貞節と作法を重んじる女性から軽薄な女性に転じられると、その言葉通り、彼らは愛情に満ちた表情となります。私としましては、頭に浮かんだことを順不同に書き留めなくてはなりません。ジロジロ見詰めてくる陽気な紳士は、九分九厘、世帯主です。承知しておいていただかなくてはなりませんが、彼らは最近頻繁に罪を犯しているのです、そして若者は大真面目に女性4人と従僕3人を抱えることになります。こういったご立派な世帯主は、私の知っている限り、6人をくだりません。身分のある若者のこの気質は身分の低い人たちが真似をします。そして、恥じらいも覚えず非難もされることのない若い男性のひとつの放蕩に端を発してマナーの崩壊が起こります。非常に多くの美しい無力な若い女性が犠牲になり、みだらと恥辱と貧困と病気に身をゆだねるのは、まさにこの一つの泉が原因なのです。夫婦の愛情と立派な親のお手本であるはずの非常に多くの優秀な若い女性が、十分に注目されず、ありきたりのあばずれ女よりも自分たちを評価するだけの美德を持ち合わせていない人への不幸な情熱に駆られて悲嘆に暮れるのもこのためなのです。ところで観察者様、率直に打ち明けてはなりませんが、私自身、面白味のないある人物のことで苦しんでいます。彼は私が問い質すと、自分は自由を放棄しないと言うのです。彼が言うには、女性の持つ美と富のためということです。もし、カトリック信者や罪人たちと同様に、独身者たちに罰金を科すことで、市民社会の尺度を守るほかの人たちと彼らとを区別できれば、こういった不幸な事態は生じないと思います。無分別で粗野な言い方をすれば、私が意地の悪いオールドミスだと貴方に思われないように、私はまだ23歳になっていない身分のある女性で、少なくとも10人からプロポーズされ、その大半は最終的には私を拒んだのだということをお知らせしておきたいと思います。恋人が新しいふしだらな女に手をつけるといつも、何かがうまく行かなくなり、結婚して身を固めることは簡単に排除されるわけです。悪徳はありませんが美德もない生気のない愚か者に夢中になる以外には、身持ちの悪い若者を避ける手立ては皆無です。最近では、私たち女性は、立派な人は論外ですが、せめて悪人でない人を手にすることが出来れば満足しなくてはなりません。観察者様、先日、私は貴方のそばに座っていました。貴方の観察者としての観察に気に入ったものと思います。こういった邪悪さに貴方のご意見を述べていただくか、尊大な重苦しい心が指示したこの覚書を活字にさせていただけますと嬉しく思います。

敬具

レイチェル・ウェラデイ

第529号 1712年11月6日(木曜日)

【アディソン】

あらゆることに場所と時間をわきまえさせなさい。(ホラティウス)¹⁾

先般の身分と席次をめぐるいくつかの争いを耳にしたとき、私はこの大問題に関して、学識者の世界でのことをあれこれ考えて気晴らしをせざるを得ませんでした²⁾。ここで言う学識者の世界とは、著述であれ、印刷であれ、朗誦であれ、文筆作品に関わるすべての人たちのことを漫然とさしています。まず著述家のことから始めます。私の見るところでは、2つ折り本の著者は、あらゆる社交の場で、4つ折り本の著者より上席を占めますし、4つ折り本の著者は8つ折り本の著者より上席ですし、そして順番に順位が落ちて24折り本の著者にまで至ります。この差異は非常に明確であり、学識者の集いで2つ折り本の著者が肘掛け椅子に座っており、一方、12折り本の著者が単に上位に対する敬意の念から長椅子に座っているのを見たことがあります。要するに、著者は人前では、通常、書棚での作品の場所と同じように、配列されるのです。

極小のポケット版の著者の下位には、パンフレットつまり綴じられるだけの作品の著者がいます。パンフレット作者に関しては、彼の下位にいるのは特定の日あるいは毎日労作を発表する1枚ないし何枚かのビラの著者しかいません。ビラの著者の場合、彼らの席次はまだ決まっていないと思います。

私自身はどうかと言いますと、学識界に行き渡っている典礼を厳格に尊重していますので、すでに出版されましたが³⁾、私の日刊紙がまとまった1、2巻になるまでは、パンフレット作者と変わらないものと思っていました。本になりますと、私は当然パンフレット作者だけでなく1冊しか著したことのない8つ折り本の著者はすべて跳び越したのです。そしてまた、書籍商が言うには、8つ折り本6冊は常に2つ折り本1冊に匹敵するということです。この点に関しては言われる前から気づいていました。私が6冊出版して、それに準じた席次についた場合でも、学識界を驚かせたくないからです⁴⁾。散在している私の力が結集して、本格的な本になると、私はもはや卑しむべき存在ではなくなると自惚れています。

文人共和国⁵⁾で遠い昔から受け入れられて来たこういったルールが元々紙製造業者を目的として設けられたのかどうかは、ほかの人たちの議論に委ねて、ここでは、印刷業者も書籍商もすべて、各人が受け持っている著者の上記利点に従って、互いに席次を決めているのだとだけ言っておきたいと思います。

ここで、3専門職の間では法律の教えによって席次が決まっていることが私の頭に浮ん

1) ホラティウス『詩の技法』92

2) レヒテラン伯とムッシュ・メスナジェの対立に関しては、第481号参照。

3) スペクテイターの第1巻および第2巻は1712年1月に出版された。

4) 第3巻および第4巻はこのとき印刷中、実際11月中に出版された。

5) 文人共和国つまり文壇という言い方は第58号にも登場。

で来ます。それぞれの権威者に割り当てられている身分に注意する必要はありません。彼らはすべて位が騎士ほど高くはありませんが、郷紳よりは高いのです。郷紳たちは教養がありませんので、全員まとめて3専門職の下位に位置づけられています。読書するとしてもせいぜいが『イングランドの現状』⁶⁾であり、しばしば国法によって自分たちにふさわしくないと言われている席次を奪おうとする田舎の郷紳がいるために、そう言うのです。郷紳たちをこの地位にしている学識不足は、ある程度彼らの不品行の情状酌量の理由となるかも知れません。そして、彼らがこの罪を犯すとき、わが教授方は彼らが無知であること、つまり、私たちがよく言うように、彼らは右手も左手も区別がつかないということを考慮して、彼らの罪を大目に見てやるべきです。

学識界の従者で、どんな場合にでも自分たちの団体に独特の法則によって自らを調節する種族がもうひとつあります。つまり、男女双方の役者のことです。役者間では、悲劇役者は常に喜劇役者の上位だというのが確立された議論の余地のない法則となっています。私たちを笑わせる陽気な道化師は食卓では末席に座り、興行では悲劇の威厳に道を譲るとするのは周知のことです。舞台では、一度王を演じるといつまでも王だ、という金言があります。このため、ブロック氏が、上背もあり優美さも備えているにも関わらず、上背が5フィートしかない英雄の片腕になるのはとても馬鹿げたことだと思います⁷⁾。女優たちの間でも同じことが伺えます。女王や女主人公は舞台を離れてもその地位を維持します。一方、侍女や女官を演じる女優は舞台を離れても女王や女主人公を演じた人たちと距離を置きます。

同等の理由から、悲劇作家たちはすべて、喜劇作家たちより先に席に着き、食事を出され、挨拶されることを当然だと思っているのだとだけ付け加えておきたいと思います。悲喜劇を扱う作家は、通常悲劇作家と喜劇作家の中間に位置します。悲劇作家と叙事詩の作家の席次については以前から論争になって来ました。アリストテレスは、叙事詩の作家は悲劇作家に上席を譲るのだと言っていますが、ドライデン氏およびその他大勢はこの決定を甘受しないと言っています⁸⁾。風刺劇の作家は、喜劇作家が悲劇作家に敬意を払うように、叙事詩の作家に敬意を払います。

この簡単な法則によって、文人共和国の秩序が維持され、名声が守られているわけです⁹⁾。

6) 副題は「アングリア記録簿」で、エドワード・チェンバレンが1669年に手を付け、そのあとを息子が引き継ぎ、1708年にタイトルが「大ブリテン記録簿」に変更された。

7) ブロックは一般にどたばた喜劇を専門にした。11月3日は、スティーラの『優しい夫』ではサー・ハリー・ガビンを演じ、本紙が発行された日には、ファーカーの『伊達男たちの戦略』のボンフェスを演じた。

8) アリストテレス『詩学』26

9) 第445号参照。